

様式(細則5-2)

平成25年4月15日

浜田市議会議長 瀨松三男様

議員名 芦谷英夫



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成25年4月13日(土) 13:00 ~ 15:30
2. 研修内容 「出雲の大神と出雲神話〜ご遷宮を記念して〜」
3. 研 修 先 出雲商工会議所
4. 調査経費 2,900円
(経費内訳 JR 浜田駅⇔出雲市駅 往復)
5. 調査研究活動の概要
別紙のとおり

講演会参加の概要

4 番 芦 谷 英 夫

◎期 日 平成25年4月13日(土)

◎場 所 出雲商工会議所

◎概 要 演題 「出雲の大神と出雲神話～ご遷宮を記念して～」

講師 島根県立古代出雲歴史博物館 上田正昭 名誉館長

(京都大学名誉教授)

○出雲大社は約60年振りに遷宮が行われ、5月10日に本殿遷座祭が斎行され、出雲大社展、シンポジウムなど関連行事が開催され、この講演会も一連の行事として行われたものであり、参加者は約500人。

○出雲大社の御祭神・大国主神は、古事記の中で、試練の末に国土を開拓し、なりわいの道を広められた偉大な神として描き出されている。出雲国風土記では、所造天下大神(あめのしたつくらししおおかみ)と讃えられており、また古くから幸いを授けられる福の神、縁結びの神、だいきくさまとも呼び慕われている。

○神話では国譲りの代償として出雲大社ができたとされているが、須佐之男命が大国主神を立派な男かどうかを試して合格したことによって「大国主神」を名乗り、現在の出雲大社の場所に住むことを認めた、との説を披露された。

○出雲大社や大国主神は、古事記、出雲国風土記のほか日本書紀、平安時代に祝詞や神名帳などをまとめた延喜式などにも記述がある。また大国主神は古事記では5つの名があり、日本書紀では7つの名があることから、大国主神は幅広い活躍をしたと考えられる。

○24年の古事記編さん1300年に続き、今年はお出雲大社平成の大遷宮、伊勢神宮の遷宮も行われることから神話や古代史のブームとなる。石見地方は少し関心が薄くなりがちであるが、古事記と日本書紀からつながる石見神楽、万葉集と柿本人麻呂など、関連するキーワードをたどりながら、古代史文化や郷土支の掘り起こしを行い、郷土への愛着、観光振興などに結びつける必要がある。

—以上—